

# Campus News

[ キャンパスニュース ]

2017. 8  
Vol.50

## 【特集】

- 静岡理科大学 公開講座 通算100回記念講演を開催
- 「Space traveler」が種子島ロケットコンテストに初出場
- 研究のポテンシャルを探る



### ■ 女子学生メンバーが中心となり、情報誌「Do you know? 愛野!」を制作!!

JR愛野駅周辺の飲食店、観光施設等を本学女子学生グループ「Rikejo Cafe」が中心となり、情報誌「Do you know? 愛野!」を企画、制作しました。袋井市愛野地区に親しみを感じてもらえる1冊となっています。是非、「Do you know? 愛野!」を目にした際は手にとってご覧ください。

《Rikejo Cafe》<http://www.sist.ac.jp/rikejo/index.html>

はじまりを、つくる



静岡理科大学





# 学長挨拶

創造への挑戦による価値の連鎖が、  
革新的技術を生み出します。

学長 野口 博

本学では、地域の創生、コミュニティの活性化に貢献出来る人材を育成する理工系の大学として、何よりも大切な想像力を鍛え、社会に役立つ企画や発想、そしてそれを実現する仕組みを考える「ことづくり」と、それを形にして行く「ものづくり」に挑戦し、自ら歩み続ける学びの場を作って行きたいと思っています。

そして、「ことづくり」と「ものづくり」の相乗効果により、創造への挑戦が生み出す、一つ一つの価値をしっかりと繋げていくことで、社会に役立つ高付加価値の革新的技術を創出できる人材育成を目指したいと思います。

本学は、物や事の本質を探求する「理学」と、その知見を基に人間の生活に役立つ「こと」や「もの」の創造を目指す「工学」、「情報学」の専門分野を持つ静岡県唯一の私立の理工系総合大学です。

静岡県特有の茶畑や起伏に富む緑豊かな森に囲まれ、4月に開設した建築学科棟の「市民や学生が集える大きな軒下空間」や、ICTやIoTを活用する新しい情報学部の誕生など、活気溢れるキャンパスで、学生たちは、研究力に力を注ぎ、自らを研ぎ澄まし、学びを究め、人としての力を身に付け、卒業後は、社会へ旅立ち、それぞれの道をしっかりと歩んでいきます。

本学では、少子高齢化が進む中での地元袋井市の活性化を目指す冠講座「地域学」の授業を実施してきています。「地域学」の目標は、“袋井市”を知ることから始まります。さらに、袋井市役所の職員の方々にもご支援頂き、袋井市内をチームで訪ね、地域の資源及び課題を調査・分析することによって、袋井市の「まちづくり」に貢献することを目指しています。今年度のテーマは「ラグビーワールドカップに向けたまちの国際化」です。2019年にエコパで開催されるラグビーワールドカップに向け、袋井市では、市民の国際化、まちの国際化を目指していますが、学生目線でのアイデアを提言することが課題です。

地元の袋井市の多様な現場に出向き、学生のうちに社会の課題を見つけて、チームでの討論を通しての解決にぜひ取り組んで下さい。



建築学科棟の1階大階段前にて

## 遠州灘

遠州平野から見える空は広々としていて気持ちが良い。そんな空を見ているとジェームズ・タレルの作品「Blue Planet Sky」が思い起こされる。この作品は、矩形に抜かれた天井を通してただ空を眺める作品である。それだけ聞くと訝しく思われるかもしれない。だが、綺麗にくり抜かれた天井の穴がフレームの役割を果たし、その展示空間もあいまって空を鑑賞することを促す。暫くその場に滞在し空を眺めることを満喫したと記憶している。

情報の提示手法や受け手の環境はその内容に影響を与える。学生は日々、講義室内で黒板やスクリーンといったフレームの中を見ている。講義の内容をただそこにある空のままに留めさせてしまわないように、その提示方法や教室環境を工夫していきたいものだ。(S)

# 遠州灘



静岡理工科大学 公開講座

# 通算100回 記念講演を開催しました

(講師:ヤマハ発動機ラグビー部 清宮克幸氏)

平成3年の開学以来、地域の皆様に対する多様な学習機会を提供し、生涯学習を推進する観点から公開講座を毎年2〜3回開催しています。本年度の第2回公開講座(5月20日開催)は、本学が開催してきた100回目の公開講座となりました。

## ●ヤマハ発動機ラグビー部 清宮監督が講演



通算100回を記念し、本学が高等教育機関として果たす「人づくり」と、地域拠点である袋井の「街づくり」について学ぶテーマを掲げ、小笠山総合公園エコパが、2019年にラグビーW杯の試合会場となることから、「ラグビー」を機軸とした「人、組織、街づくり」を地域の皆様とともに学ぶ機会と位置付け、開催しました。

今回は、ジャパンラグビートップリーグ所属のヤマハ発動機ラグビー部監督である清宮克幸氏を招き「ラグビーが人・地域をかえる」をテーマにご講演をいただきました。講演では、清宮監督がこれまで指導したチームを日本一に導いた育成・指導の経験を基に、「監督(上司)は、選手が乗り越える大きな舞台を用意し、選手が目的意識を持って自ら行動をすることが人づくりでは大切である」との解説がありました。

## ●トークセッション 監督・市長・学長が語る「人づくり・地域づくり」とは

また、トークセッションでは、清宮監督、袋井市長原田英之氏、本学学長野口博の3名が、それぞれの専門分野からの視点により、「人づくり・地域づくり」について、語り合いました。



野口 博 本学学長



原田 英之 袋井市長

参加者の皆様からも、袋井の街づくりへの提言や小笠山総合公園の有効活用方法、そしてラグビーワールドカップ2019までに市民としてできることは何かなど、様々な質問が寄せられました。原田市長からは、「まず何よりもエコパで戦うラグビー戦士を応援し、競技に興味を持ってほしい」と意見が出され、清宮監督からは、「ラグビーワールドカップという大きな舞台を市民の皆さんで盛り上げ、成功に導くことが、この地域の活性化に必ず繋がる」と意見が出されました。最後に野口学長から、「このエコパ地域を拠点とする大学として、学生とともに地域に貢献することで、人づくりに繋がっていききたい」と意見があり、盛会のうちに本公開講座は終了しました。

参加者の皆様からは、「実体験からの話は人の心を動かすものがあった」、「指導とは人の心を動かすことが大切だと再認識した」、「ラグビーワールドカップの成功のため協力したい」とのコメントが寄せられました。

今後も、様々な分野の講演による本公開講座を継続開催いたします。是非、ご参加いただき、多くのことを学んでいただければ幸いです。

### 公開講座過去の開催テーマ(平成28、29年度)

- (第97回)無人航空機産業の現状と今後の展望
- (第98回)ソトマで育てる、ソトマでつながる
- (第99回)進化が止まらない情報技術の今を読み解く〜ICTとは何だ!?〜
- (第100回)ラグビーから学ぶ ヒト、組織、地域づくり

次回(第101回)は  
平成29年11月23日  
(木・祝)に開催予定です



開催内容については  
本学HPを  
参照ください

# 「Space traveler」が 種子島ロケットコンテストに初めて出場しました

本学機械工学科の有志で結成された団体「Space traveler」が、平成29年3月1日から鹿児島県の種子島にて開催された、「第13回種子島ロケットコンテスト」に、本学から初めて参加しました。大会の様などを、参加した学生 小坂和生さん（機械工学科2年）、大山隆生さん（同）と指導教員の機械工学科増田教授にお話を伺いました。



左から大山さん、小坂さん、増田教授

——本学から、本コンテストへの参加は初めてでしたが、出場するきっかけはどのようなことでしたか。

増田 本学機械工学科には、「航空工学コース」が設置され、多くの学生が勉学に励んでいます。私は宇宙に関わる飛行体の研究をしていますので、宇宙にちなんだこのコンテストに学生が参加することで、技術力、人間力などを学べるのではないかと思います、参加学生を募りました。

——皆さんの参加理由を教えてください。

大山 もともと飛行体に興味がありました。

小坂 宇宙関係の仕事に就きたいと思っているなかで、このコンテストのことを知り、参加しました。

——大会では「ロケット部門（ペイロード有翼滞空※1）」に出場されましたが、なぜこの部門を選択したのですか。

増田 全てが初めての試みでしたので、航空機に興味がある学生が参加しやすい部門を選びました。

——大会に参加するまでの準備状況などを教えてください。

小坂 藤枝朝比奈大龍勢の機体をヒントにし、「軽量安定飛行機」をコンセプトに、本格的に機体の製作に取り掛かりました。

大山 練習では33秒の滑空時間で、優勝を狙えるのではないかと少し期待を持ちました。

——種子島は、どのような環境でしたか。

大山 自然豊かな島に、巨大な宇宙センターがそびえ立つ環境は、まさに宇宙関連の聖地と思えました。

増田 ①赤道に近い（地球の自転の力を利用）、②発射施設の東側に海がある（発射方向、打上げ備品の回収）という、ロケット発射のための条件が揃っている場所こそ、種子島なのです。

——知りませんでした。コンテストはいかがでしたか。

大山 大会は3日間で行われ、技術のプレゼンテーション、打上げ、ワークショップ（参加者交流）がありました。打ち上げ

は、気候のコンディションも良く、まっすぐ100m以上は上がりました。回収機と滑空機の分離も正常にいきましたが、...

——なにかあったのですか。

小坂 分離後に回収機のパラシュートが開かず、リタイアとなりました。また、滑空機はスパイラル状態となり、滑空しませんでした。



コンテストで使用した機体

——そうですね。失敗した原因はどのようなことですか。

小坂 機体がシンプルであるため、容易に製作ができたため、飛行試験で実際に飛ばした機体を使用せず、本番機は初飛行でした。実際の打上げ試験の回数が少なかったことですかね。

——大会全体を振り返り、参加した感想を教えてください。

大山 目的を持った機体製作が重要であることと、実験を繰り返し、問題点を明らかにすることが重要であることを学びました。

小坂 なにより、聖地種子島でコンテストに参加した経験は、活動のモチベーションをより高めるものとなりました。

——最後に今後の目標を教えてください。

小坂 機体にモータなどを取り付け、ラジコンのようにセルフコントロール可能な機体を製作し、参加することが目標です。

大山 もっとメンバーを集め、またチャレンジしたいですね。

——ありがとうございました。

2018年のコンテストに向けての決意を含めてインタビューを伺いました。今後も、「Space traveler」の活躍を期待しています。

※1 ペイロード部門

ペイロードに翼をつけ、放出から着地までの滞空時間の長さを競う。機体条件、部門などは、コンテストHPをご覧ください。（<http://jaxa-rocket-contest.jp>）



〈取材〉学生スタッフヨクスル 東屋、井野口、杉山



# 特集 研究の ポテンシャルを探る

本学では、平成28年12月に、新たなコミュニケーションマークを定めました。「研究力」をブランドコンセプトとし、「研究力」に満ち溢れる静岡理科大学を紹介しています。この平成29年8月には、本学ホームページに本学の「研究のポテンシャルを探る」をテーマに、新たなコンテンツを開発いたしました。今回は、そのコンテンツ内容の一部を、本誌でも紹介します。



## 地元の期待は大きいですよ

耐震、照明、環境 — 建築学科の多彩な「研究力」

理工学部建築学科 丸田 誠教授(学科長)

建築学科の丸田誠教授(学科長)は、地元の建築士会や建設業協会の方々とお話しする中で期待感がひしひしと伝わってくると言います。静岡県で初の建築学科、しかも長らく続いた不況の影響で、建築業界は40代から下の世代で人手不足が深刻。本学建築学科が送り出す人材には、今から大きな期待が寄せられています。

その意味で関係者が今、建築学科に求めているものは「教育力」でしょう。丸田教授も今は、カリキュラムや学生を伸ばすための教育に最も力を注いでいます。

ただ建築学科の陣容を見ると、「研究力」に注目しないのもったいない、そう感じるほどのスタッフがそろっています。以下、教員たちの研究力とそのポテンシャルを探ってみましょう。

### “耐震ノウハウは静岡で生きる

まずは学科長の丸田誠教授。専門はRC（鉄筋コンクリート）部材の耐震性能評価と設計手法です。ビルの高層化にともない、コンクリートや鉄筋が高強度化されてきましたが、それらの材料を用いた柱や梁、その結合部などの部材の耐震性能を評価し設計法を提案しています。評価データを基にした設計手法の提案も守備範囲です。鹿島建設技術研究所に勤務していたときには、超高層ビルであっても柱や梁のない広々とした空間が作れる「スーパーRCフレーム構法」の開発に携わってきました。

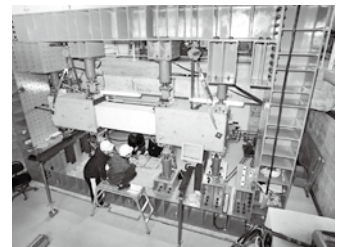


▲現在、構造実験棟には何もありません

耐震性能評価のために学内では構造実験棟の準備が進められていて、2017年10月にオープンする予定です。柱や梁（実際にはその縮小スケール）を持ち込んで構造実験などが行える施設で、内部には高さ約6メートルのフレームを設置します。

建築学科の研究・教育に活用することはもちろん、地域の企業に使ってもらえるようなオープンな施設にする構想もあります。

構造実験棟に  
設置予定のフレーム▶



また、丸田教授は、「構造系の建築会社数社からも相談を受けていますが、地元企業と協力していくことも大切なことだと認識しています。例えば鉄筋コンクリートの柱と鉄骨の梁を組み合わせるような独自の構法を開発するなど、中小企業では難しいことでも、本学の構造実験棟を活用しつつ共同で研究を進めることもできるはず。そのために県内の数社が集まってコンソーシアムを作るなど、実現に向けた仕組みづくりも考えていきます」と意気込みを語ります。

南海トラフ地震というハザードを抱えている静岡県。ここでは、さまざまな耐震ノウハウがきっと求められるようになるでしょう。(続きはWEBで)

「研究のポテンシャルを探る」のコンテンツは、本学ホームページに開設。<http://www.sist.ac.jp/research> 定期的にコンテンツを更新し、本学の持つ「研究力」を地域の皆様にお伝えします。是非、WEBコンテンツをご覧ください。



## 第74回・第75回SISTサロン

3月3日(金)、10日(金)、第74回・第75回SISTサロンを開催しました。第74回は理工学部電気電子工学科の郡武治教授が、第75回は同学科の小川敏夫教授がそれぞれ講演を行いました。郡教授は無線通信に関わる研究開発の成果をふまえた自動運転の可能性について講演をしました。小川教授は研究開発に対する手法について、企業および大学のそれぞれの立場や環境の違いや、実際の取り組まれた研究とその成果について講演をしました。沢山の方にご参加いただき、温かい拍手をもって講演を終えました。



## 合同企業セミナー

3月7日(火)、8日(水)の2日間にわたり、本学にて合同企業セミナーを開催しました。7日、8日それぞれ83社に来学いただき、学生との面談、教員との情報交換などを行いました。参加した学生たちにとって、様々な企業の担当者と直接話をする事で各業界への理解を深め、自分の将来を改めて考える有意義な時間となりました。



## 第15回SISTコロキウム

3月11日(土)、静岡市のベガサートで第15回コロキウムを開催しました。SISTコロキウムは、提供された話題について討論を行う静岡理科大学版サイエンスカフェです。静岡県中部地域で初の開催となる今回は、静岡市内の高校生が話題提供者となり、一般参加者、参加高校生同士での意見交換を行いました。静岡北高等学校が「環境汚染はこれで解決!『硝酸イオン電池』ってなに?」を、静岡県立科学技術高等学校が「数字の不思議。モンティホール問題を解く!」を、静岡市立高等学校が「目に見えないけど役に立つ。効率良くミドリムシを増やす方法」を話題提供し、活発な交流の時間となりました。一般参加者からは「高校生の取り組みを知ることができてよかった」「技術大国の未来を担ってほしい」といった温かい言葉が寄せられました。



## 記念植樹

3月16日(木)、大学近くの愛野公園で、卒業生代表がカツラの木を記念植樹しました。この植樹は、4年間お世話になった袋井市民へのお礼として卒業生からの募金により、一期生から毎年行われており、今回で23本目の植樹になりました。

卒業生たちは「お世話になった袋井に植樹が出来て感慨深い」と袋井市での学生生活を振り返っていました。



## 卒業式

3月18日(土)、平成28年度卒業証書・学位記授与式を挙行し、理工学部、総合情報学部合わせて288名と大学院生10名が卒業しました。

卒業生を代表して理工学部物質生命科学科の前田竜之介さんが「苦難も友人と励まし合って乗り越えることができた。創造力と積極性を持って社会と技術の発展に貢献したい」と力強く誓いました。



## 特別講演会

3月25日(土)、本学にて特別講演会を開催し、「人生、好奇心次第!」をテーマに、理工学部物質生命科学科の志村史夫教授が講演を行いました。「いままでの勉強や研究を楽しむことができた原点は『好奇心』だ」と、いままでの人生を振り返った講演内容に、246名の参加者は熱心に耳を傾けていました。



## 入学式

4月4日(火)、平成29年度入学式を挙行し、学部生、大学院生合わせて405名が入学しました。新入生を代表して、理工学部建築学科の市川亜美さんが「社会に貢献できる人間となるよう真摯な姿勢で努力し続けます」と力強く宣誓しました。



## 公開講座

4月29日(土)、本学にて「平成29年度第1回公開講座」を開催し、当日は108名の皆様にご参加いただきました。「世界を牽引する情報技術革新の今と将来」をテーマに第1部は情報学部コンピュータシステム学科の水野信也准教授が「進化が止まらない情報技術の今を読み解く～ICTとは何だ!?～」と題し講演を行い、第2部は静岡大学情報基盤センターの井上春樹センター長が「これからの情報技術革新と私たちの生活」と題し講演を行いました。Pepperが登場するなど、最新の技術に触れた参加者からは「AI技術の現状にびっくりしました。今後の進展が楽しみです」といった意見をいただきました。



## チャレンジハイク

5月20日(土)に、本学のクラブ連合委員会が、毎年恒例のチャレンジハイクを開催し、当日は56名の学生が参加しました。学生たちは大学を出発、法多山から愛野公園、可睡斎へと足を伸ばすルートにチャレンジしました。5月の明るい日差しのもと、学生たちは学年の垣根を越えた交流を深めました。





# Message for S.I.S.T. [大学へのメッセージ]

## RWC2019エコパを盛り上げよう! ラグビー日本代表 サポーター 田端 麻由美さん

来る2019年、エコパスタジアムで「ラグビーワールドカップ」が開催されます。各国からたくさんのラグビーファンが駆けつけます。私は前回のイングランド大会に行きましたが、会場までの道のりでは、フォトフレームを使った写真撮影や応援フラッグの配布など、市民スタッフが大勢活躍していました。その方々のおもてなしが素晴らしく、「まち全体が大会を楽しんでいる」と感じました。

これほど大きな大会が地元で開催されるまたとない機会です。愛野駅からエコパまで周辺一帯が大きなイベント会場となり、お祭り騒ぎになるでしょう。袋井市、日本の代表として、国内外から観戦にくるお客様をお迎えし、「袋井、エコパは最高だった」という気持ちで帰ってほしいと思います。

静岡理科大学には、袋井、愛野そして日本の魅力を伝え、良い大会づくりに携って頂きたいです。地元をよく知る学生の皆さんのパワーで、一緒に盛り上げていきましょう。



## まちの国際化に努力!

袋井市役所 企画政策課シティプロモーション室 江 潔さん

私は2013年9月、中国の南通大学を卒業して留学生として静岡理科大学に入学しました。2年間半の研究を経て大学院を修了した後、2016年に袋井市役所企画政策課シティプロモーション室に就職しました。

留学中、静岡理科大学の素晴らしい教職員に恵まれて、とても楽しい留学生活を送ってきました。中国の大学教育では、「知識」の詰め込みに重点が置かれていますが、静岡理科大学では、「創造力」の育成に力を入れていると実感しました。たとえば、ものづくり活動、国際PBL活動、日本語弁論大会、英語スピーチコンテストなどがあります。これらの活動に参加したことが人間力やモチベーションの向上につながったと言っても過言ではありません。

今は自分の留学経験を生かして、ウイチャット(中国版LINE)で中国に向けて、袋井市ならびに静岡理科大学の魅力を発信するサイトを立ち上げ、一人でも多くの中国人に、緑が溢れる袋井の美しい風景や、静岡理科大学の良さを知ってもらい、沢山の観光客や留学生に袋井に来てもらえれば願うばかりです。

また、2019年にエコパで開催するラグビーワールドカップに向けて、自然豊かな町だけではなく、国際化も先進している袋井市のイメージを世の中へ伝えていく必要があります。それには、静岡理科大学の協力が重要だと考えています。今年5月には、私の母校である南通大学と静岡理科大学がMOU(学術交流協定)を締結し、私はとても嬉しく思います。これをきっかけに両大学の交流と国際化がますます発展していくことを期待します。

今後は、袋井市役所の職員、そして静岡理科大学の教職員の皆さんと知恵を出し合い、沢山の外国人観光客が賑わう袋井市、沢山の留学生が留学している静岡理科大学の実現に向けて、頑張っていきたいと思っています。



コーケン工業株式会社  
常務取締役 藤本 明徳さん  
電子工学科(現:電気電子工学科)  
第1期卒業生

## 活躍する卒業生

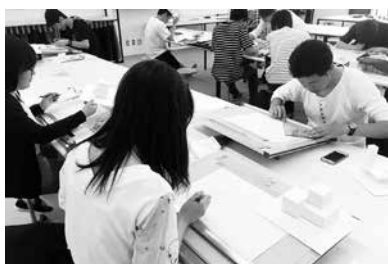
私は第1期の卒業生です。現在は、コーケン工業(株)に勤務しています。農業機械・建設機械・自動車等に使用されるパイプ部品の製造販売を行っており、多品種少量・短納期生産を強みとしてお客様のニーズに応えています。当社は今年、「日本でいちばん大切にしたい会社」として『中小企業庁長官賞』を受賞致しました。これは、高齢者雇用(最高齢社員は89歳)や、しょうがい者雇用を積極的に行い、「人」を大事にする経営方針が評価され、頂くことができたものです。

私は入社時に海外勤務を希望し、入社後4ヶ月でタイの合弁会社に出向して、営業、技術、現地スタッフへの指導等を担当しました。苦労もありましたが得るものの方が多く、貴重な経験となりました。在学中に先生方から教えて頂いた幅広い知識や様々な経験が活かされる場でもありました。帰国後はタイ事業を担当しながら、技術、営業の仕事を行い、現在は経営全般に関わって、全社員が安全・安心に、働き甲斐を持って仕事ができる会社になるよう、邁進しています。余談ですが、休日に先生や仲間と出掛けたツーリングは今でも楽しい思い出となっています。

今後は、「チームコーケンの幸せ」実現し、地域社会に貢献できる「いい会社」となるよう、日々努力していきたいと思っています。

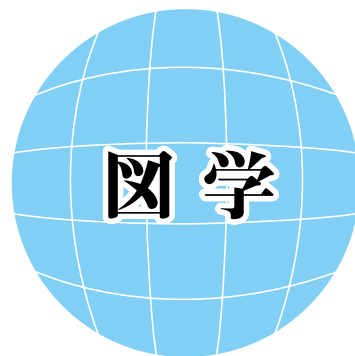


## 授業の紹介



建築学科の新生が最初に取り組む演習課題が「図学」です。平行定規の付いた製図板に向かい、製図用のシャープ、三角定規、勾配定規を用いて描画します。新生はまず、ハンドドローイングに取り組み、建築で重要となる3次元の空間の把握について学びます。授業では、3次元のオブジェクトを平面図や断面・立面

図、あるいは軸測投象図や透視図として、2次元の紙の上に表現していきます。学生はまず、スチレンボードを使って3つの直方体が噛み合った模型を製作した後、模型を計測し、平面図・立面図を作図します。次に、模型を斜め上から見た軸測投象図を作図します。さらに屋外の太陽光線のもとで、模型の側面や基盤面に投影される陰影を観察し、製図板にて平面図・立面図・軸測投象図に陰影を作図します。こうして、3次元の立体を2次元の紙の上で表現するために不可欠な陰影の概念について習得します。実際の建築においても、光と影の分布が空間の質を高めます。こうした技能が、2年次以降に学ぶ、コンピュータを使った製図として二次元CADや三次元モデリングに連係していきます。



担当教員：建築学科 教授 佐藤 健司・教授 脇坂 圭一・非常勤講師 長尾 亜子

## 藝術工学研究室(情報デザイン学科)

# おじゃまします。

本研究室は、ヴィジュアルコミュニケーション(視覚伝達)の研究を行っています。「ヴィジュアルコミュニケーション」というと、聞きなれないかもしれませんが。例えば、学校の校章や企業・団体などのシンボルマーク。トイレやゴミ分別の標識(サイン)。イベントや商品を宣伝するための広告やホームページのデザインなどです。これらの例から、皆さんが目にしたことのあるものがイメージできたのではないのでしょうか?本研究室は、こういったモノのデザインを実践することで、ヴィジュアルコミュニケーションについての研究を行っています。また、卒業研究では、学生の感性と創造性を活かした作品制作が行えるように指導しています。

### 研究室学生からひとこと

海野 萌さん (情報デザイン学科4年)

私の卒業制作のテーマは「印象に残るデザインを考え、制作すること」です。大学で3年間心理統計学やプログラミング、CGなどを学んできました。学んできたことをいかして、印象に残るデザインを作りたいと思ったことがきっかけです。現在考えている具体的な取り組みは、プロジェクトマッピングを活用したPRやイベントの実施です。また、この取り組みの効果を分析できると、商品のプレゼンなどに活かせるのではと考えています。

### 研究室担当教員

松田 崇先生

#### ■プロフィール

千葉県出身。武蔵野美術大学で学び、卒業後、武蔵野美術大学などの講師とヴィジュアルコミュニケーションの実務に従事。平成28年4月に本学へ着任しました。本学では実務家教員として、ヴィジュアルコミュニケーションの実践を研究テーマに、学生と一緒に切磋琢磨しています。

研究室訪問

第38回



# 入試広報 NEWS

## 静岡理科大学の「すごい」を体感!

### ■夏のオープンキャンパスで静岡理科大学静岡理科大学の「研究力」を体感しよう!

本学で考える「研究力」とは、

自らを「研」ぎすまし・学びを「究」め・人としての「力」をつけること。

学生は、本学での授業や研究、サークル活動などの様々な経験を通して、社会人として活躍できる有用な人材へと成長していきます。そんな静岡理科大学の「研究力」をオープンキャンパスで体感してみましょう。

受験生は進路選択を見据えた情報収集に、1、2年生は今後の進路研究の一助として、オープンキャンパスを活用してみませんか?未来に役立つ様々なアイデアが生まれる研究室の見学や模擬講義や実験講座を通して、静岡理科大学の「研究力」の魅力にきっと気づくはず!当日案内をする本学学生から大学生活の情報もゲットしましょう。

また、祝日開催の「Weekday大学見学会」では、静岡理科大学の授業や研究に取り組む学生の普段の様子をご覧くださいことができます。



### ●オープンキャンパス 7/30(日)、8/20(日)、9/10(日) 開催時間10:00~16:00

研究室見学・体験、学科紹介ツアー、学食体験、保護者説明会、入試要項配布、過去問題配布など  
入試情報や就職情報、新設の建築学科を始め最新の学科情報もご案内。個別相談にも応じます。

### ●Weekday大学見学会 7/17(祝)、10/9(祝)、11/23(祝) 開催時間13:00~16:00

授業見学、研究室見学、入試説明会、保護者説明会、個別相談など

\*詳細や参加申し込みは、本学受験生サイト(<http://www.sist.ac.jp/navi/>)からどうぞ!

### ■ウェブマガジン「in-sist」で理工系の魅力に浸ろう!

「in-sist」はサイエンス、テクノロジー、デザインによって、わたしたちの生活や社会にどう影響するのかについて包括するウェブマガジン。何かを創るということは、何かに挑もうとすること。試行錯誤しながら学んだ人間は、困難を乗り越える強さを身につけることができます。多くの経験と技術が人々の暮らしを支えてきました。そしてこれからも…。研究

のDNAを未来へ繋いでいきます。ウェブマガジン「in-sist」(<http://in-sist.jp/>)の読者になって先人の知恵とこれからの未来に思いを馳せてみませんか。

in-sist



## 2018年度生 入試日程 \*詳細は本学受験生サイト、入試要項でご確認ください。

入試種別	試験日	可否通知日
指定校推薦入試		
公募制一般推薦入試・公募制自己推薦入試	11月11日(土)	11月18日(土)
専門高校・総合学科特別奨学生入試		
特待生推薦入試	12月16日(土)	12月21日(木)
一般前期(A)入試・(B)入試		
一般前期(A)センタープラス入試・(B)センタープラス入試	1月27日(土)・28日(日)	2月7日(水)
一般中期(A)入試・(B)入試		
一般中期(A)センタープラス入試・(B)センタープラス入試	2月16日(金)	2月23日(金)
一般後期入試		
一般後期センタープラス入試	3月2日(金)	3月9日(金)
前期センター試験利用(S)入試・(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	2月7日(水)
中期センター試験利用(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	3月9日(金)
後期センター試験利用(A)入試・(B)入試	本学独自の個別試験なし	3月21日(水)



# 人事異動

★…平成28年9月1日付採用 ◆…平成28年10月1日付採用 ●…平成29年4月1日付採用

## ★理工学部 電気電子工学科

准教授 **加藤 文和**

**専門分野** 人工知能、機械学習、画像理解、コンピュータビジョン、エネルギーマネジメントシステム

**略歴** 岡山大学大学院自然科学研究科知能開発科学専攻博士後期課程修了。京都大学大学院情報学研究科特定准教授を経て、本学准教授に就任。

**趣味** サイクリング、読書

## ◆理工学部 建築学科

教授 **丸田 誠**

**専門分野** 建築構造設計学、鉄筋コンクリート構造、プレストレストコンクリート構造、建築耐震構造

**略歴** 千葉大学大学院工学研究科建築学専攻修了。島根大学総合理工学部教授を経て、本学教授に就任。

**趣味** ゴルフ、登山、音楽

## ●理工学部 電気電子工学科

教授 **村上 裕二**

**専門分野** バイオセンサ、ヒューマンセンシング、マイクロ流体

**略歴** 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻博士課程修了。豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系准教授を経て、本学教授に就任。

**趣味** 合唱、オペラ、サッカー観戦

## ●理工学部 建築学科

教授 **本間 睦朗**

**専門分野** 屋内光環境、自然に親しむ住まい方、建築電気設備

**略歴** 千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。株式会社日建設計を経て、本学教授に就任。

**趣味** 硬式テニス、フィッシング（これから始めます）

## ●理工学部 建築学科

教授 **佐藤 健司**

**専門分野** 建築設計、都市設計

**略歴** 東京大学大学院工学系研究科建築学専門課程修士課程修了。有限会社佐藤健司建築都市研究所を経て、本学教授に就任。

**趣味** 読書

## ●情報学部 コンピュータシステム学科

講師 **定國 伸吾**

**専門分野** ユーザーインターフェイス、ヴィジュアルリテラシー、メディアアート

**略歴** 名古屋大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。広島国際学院大学情報文化学部情報デザイン学科准教授を経て、本学講師に就任。

**趣味** 旅行

## ●情報学部 情報デザイン学科

講師 **紀ノ定 保礼**

**専門分野** 認知心理学、交通心理学、人間工学

**略歴** 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。大阪大学大学院人間科学研究科助教を経て、本学講師に就任。

**趣味** 映画鑑賞、歌

## ●教育開発センター 特命准教授

**青木 禎彦**

**専門分野** 数学教育

**略歴** 早稲田大学理工学部数学科卒業。静岡県立富士宮西高等学校校長を経て、本学教育開発センター特命准教授に就任。

**趣味** 散歩

## お疲れ様でした (平成29年3月31日付退職)

機械工学科 教授 **土屋 高志**

電気電子工学科 教授 **小川 敏夫**

電気電子工学科 教授 **郡 武治**

電気電子工学科 教授 **波多野 裕**

物質生命科学科 教授 **志村 史夫**

コンピュータシステム学科 教授 **森 隆比古**

コンピュータシステム学科 准教授 **飯倉 宏治**

人間情報デザイン学科 准教授 **三原 康司**

人間情報デザイン学科 講師 **松永 理恵**

## 同窓会 だより

## 同窓会よりスクールバス寄贈による 愛野駅南口～大学間スクールバス 無料運行開始について

静岡理科大学同窓会から、平成29年度3月18日の寄付贈呈式にて、スクールバス2台を寄付いただきました。これにより、平成29年4月1日より、スクールバスの無料運行を開始いたしました。新たなスクールバスは、オリジナルラッピング処理を施し、学生、及び同窓生や一般の方も含め、無料にてご利用いただけます。大学にお越しの際は、是非ご利用下さい。



## ホームカミングデーの開催

本年度も、本学にてホームカミングデーを開催します。第17回目の開催を迎える今回は、コミュニケーションゲームや豪華商品が当たる大抽選会を企画しています。会場内には、キッズスペースを用意しておりますので、是非、ご家族でのご参加をお待ちしております。スクールバスの運行を予定しておりますので、是非ご利用下さい。

**日時**：平成29年10月29日(日) 11:00～12:30<大学祭2日目>

**会場**：本学食堂(体育厚生棟1階) **参加料**：無料 **対象**：本学卒業生及びそのご家族

## 同窓会各種SNSのお知らせ

静岡理科大学同窓会では、3つのメディアによる情報発信をしています。

今後も活発に同窓会の情報を発信しますので、是非ご利用ください。また、同窓生間の交流の手段としてもご利用ください。



## 後援会 だより

## 父母懇談会の開催

**日時**：平成29年10月28日(土)<大学祭1日目> **会場**：本学300講義室(学生ホール3階)

父母懇談会では、午前全体会と学科別懇談会、午後個別面談(希望者のみ)を開催します。全体会では本学の就職状況や外部講師を招いての講演会を予定しております。学科別懇談会では各学科の特徴や近況などについてご説明いたします。午後に行われる個別面談は希望者が対象となりますが、助言教員から学生生活の様子などについてお話いたします。また当日は大学祭を開催しておりますので、是非この機会に本学までお越しください。なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封いたします。

平成29年度優秀賞表彰

1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理工科大学優秀賞」の表彰式を5月30日(火)に行いました。受賞者30名には、学長から表彰状と副賞が授与されました。受賞者は次の通りです。

<b>機械工学科</b>	2年生 杉山 海斗	3年生 白頭 菜帆	3年生 中野 鉄也
2年生 石川 隆介	3年生 白井 立樹	4年生 池田 恵里	4年生 堀尾 一樹
小松 利光	鈴木 雄太	山本 宜秀	三浦 裕記
3年生 鈴木 祥	4年生 山口 正貴	<b>コンピュータシステム学科</b>	<b>情報デザイン学科</b>
矢野 幸子	菌部 健	2年生 加井 コスヒロ	3年生 曾布川 晶
4年生 金川 昌弘	<b>物質生命科学科</b>	田中 功貴	望月 彩加
鈴木 直之	2年生 池野 竜	中西 彩美	4年生 川中 天馬
<b>電気電子工学科</b>	中村 里帆	渡邊 達矢	原 彩奈
2年生 秋山 祐輝	3年生 後藤 麻帆	3年生 草谷 翔	



サークル紹介

SIST Juicy JAZZ ORCHESTRA 部長 中村 稜さん (電気電子工学科3年)

ブラスバンドサークル「SIST Juicy JAZZ ORCHESTRA」は、現在38名が所属し、毎週火・木曜の放課後に活動を行っています。活動場所は学内にある300講義室を使用しています。

全員が中学・高校の時に楽器をやっていたわけではなく、大学から楽器を始めた初心者も多数所属しています。活動では、演奏技術の向上、演奏曲の練習を主に行っています。初心者も経験者に教えてもらいながら、練習に励んでいます。

袋井駅前夏祭り、ふれ愛音楽祭などの袋井市内でのイベントや、大学祭などの学内イベントにて演奏を行っています。聴きに来てくださった方が1度は聴いたことがある吹奏楽曲を中心に演奏しています。



スポットライト  
がんばる理工科大生



池田 祐輔さん  
(コンピュータシステム学科3年)

私は「お理工塾応援隊」という学生団体に所属しています。この学生団体では子どもたちを対象とし、理科の「調べ、学び、発見する」という面白さについて、実験等を通して教えています。本学は理系大学であり理系科目の面白さを学ぶには最適な環境ですがその内容を子どもたちに教えるのは難しいと感じます。なぜならば教える内容に魅力があったとしても、それを教える私たちの教え方次第で魅力的か否かが決まってしまうからです。

私たちはその魅力、更には理科の面白さを子どもたちに伝えるためにはどのような工夫をすればいいのかを日々話し合い検討しています。今まで活動した中で工夫したことは成功というには程遠く失敗が多かったです。しかし失敗から学んだことは、「教える」ということについて大変よい経験になりました。経験は自信に変わります。私は本学にて教職課程を履修しており、将来は高校教師になりたいと考えています。活動を通して経験したことは「教える」自信に繋がっています。

本学で学ぶことの全てのことから、自身の活動次第で、活動した分の結果や経験はもちろんですが、それ以上のものが得られました。卒業までまだ一年ある中でどれだけの自信をつけられるかわかりませんが今後も邁進していきたいと思えます。

編集後記

静岡理工科大学では、野球部や鳥人間サークル等のクラブ・サークル活動を通じて学業以外の活動にも挑戦することができます。教職希望の学生にとってはお理工塾応援隊での地域の小中学生への学習支援経験が貴重な機会となっています。女子学生にはRikejoCafeでの活動が身近な課題解決の経験としてかけがえのないものになると思います。このようなチャンスを生かして有意義な学生生活を送っていただければと思います。(N)

静岡理工科大学キャンパスニュース

平成 29 年 8 月 20 日発行  
企画・編集・発行 / 静岡理工科大学 大学広報委員会  
〒 437-8555 静岡県袋井市豊沢 2200-2  
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110  
http://www.sist.ac.jp E-mail:c-news@sist.ac.jp

